

千葉商科大学・政策情報学部開設
10周年記念・公開経済シンポジウム
7号館702教室
2009年5月20日(水)

テーマ **世界同時不況と**

日本の将来

三橋規宏



IMF世界経済見通し

	2008年	2009年	2010年
世界全体	3・2	▲1・3	1・9
先進国	0・9	▲3・8	0・0
日本	▲0・6	▲6・2	0・5
米国	1・1	▲2・8	0・0
ユーロ圏	0・9	▲4・2	▲0・4
英国	0・7	▲4・1	▲0・4
途上国	6・1	1・6	4・0
アジア	7・7	4・8	6・1
中国	9・0	6・5	7・5

09年4月22日発表、▲はマイナス、%

日米欧アジアの08年株価下落率

	08年終値	年間下落率
上海総合株価指数	1820.81	65.4%
日経平均株価	8859円56銭	42.1%
ニューヨーク・ダウ平均	8776.39ドル	33.8%
ロンドンFT100株価	4434.17	31.3%

巨額の赤字になった 2009年3月期決算

	最終赤字
日立製作所	▲7、873
野村HD	▲7、081
みずほFG	▲5、888
トヨタ自動車	▲4、369
パナソニック	▲3、789
三井住友FG	▲3、734
東芝	▲3、435
第一三共	▲3、358
NEC	▲2、966
武富士	▲2、561

単位 億円

リーマンショック後の 世界同時不況の特徴

自然環境破壊、資源収奪型の経済発展の終焉

石油をジャブジャブ使って、大量生産をし、豊かさを求める経済発展の時代が限界にきた

①節約型ライフスタイルの定着

②成熟社会に入り、モノよりも心の豊かさ、精神的な落ち着きを人々が求めてきている

③化石燃料依存社会から低炭素社会へ向けた意識変革が進んでいる

グリーン・リカバリー政策

キーワードは デカップリング

デカップリング (decoupling) とは、密接な関係（結合）にある二つの要素を引き剥がすこと。

具体的には・・・

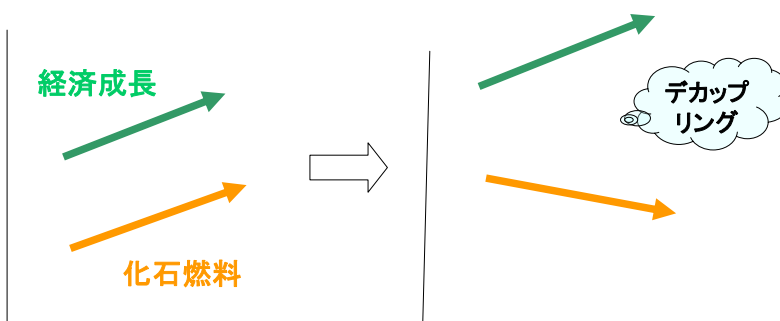
適正な経済成長を維持しながら、一方で温室効果ガスの排出量を削減する経済の構築



経済発展モデルの転換

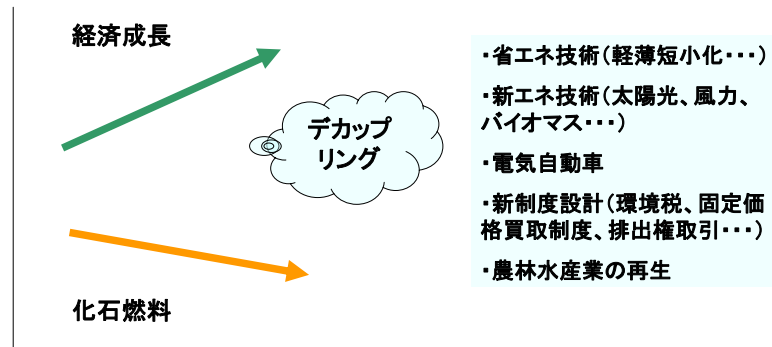
化石燃料依存型社会

低炭素社会

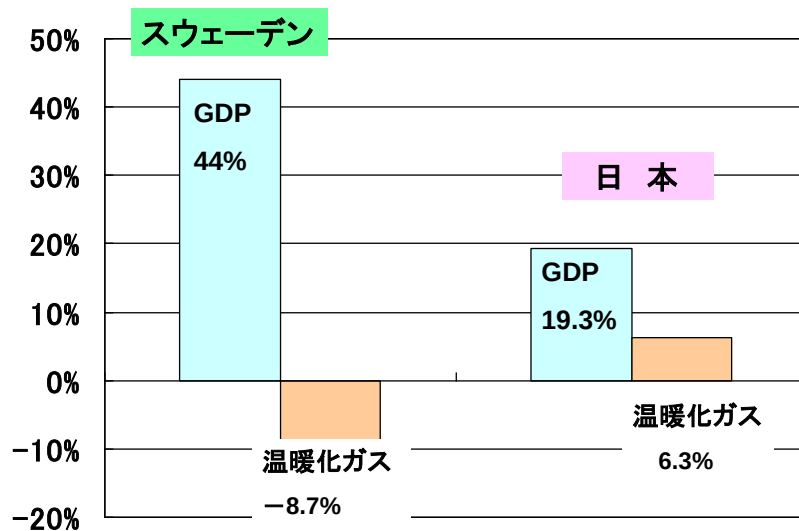


経済発展モデルの転換

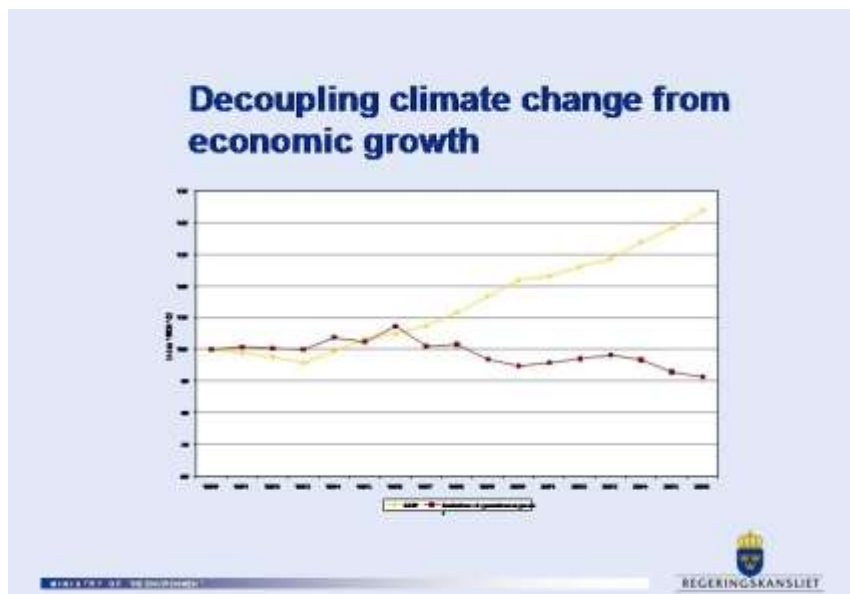
低炭素社会



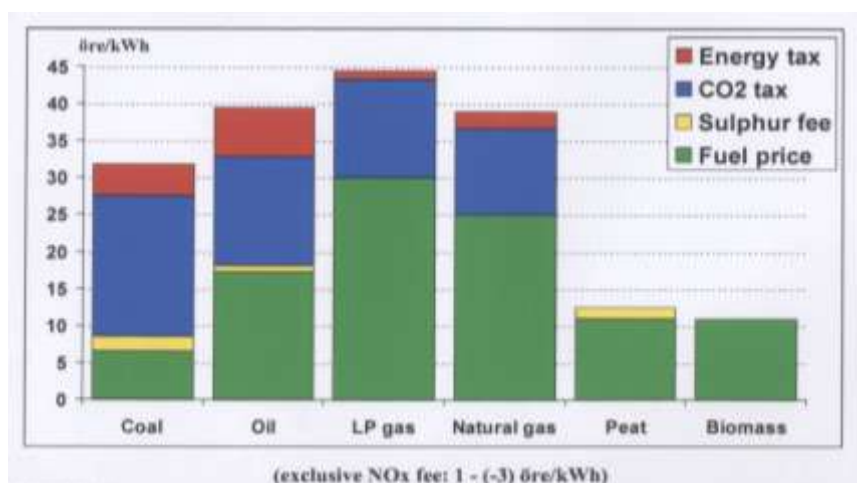
スウェーデンのデカップリング (1990年比2006年)

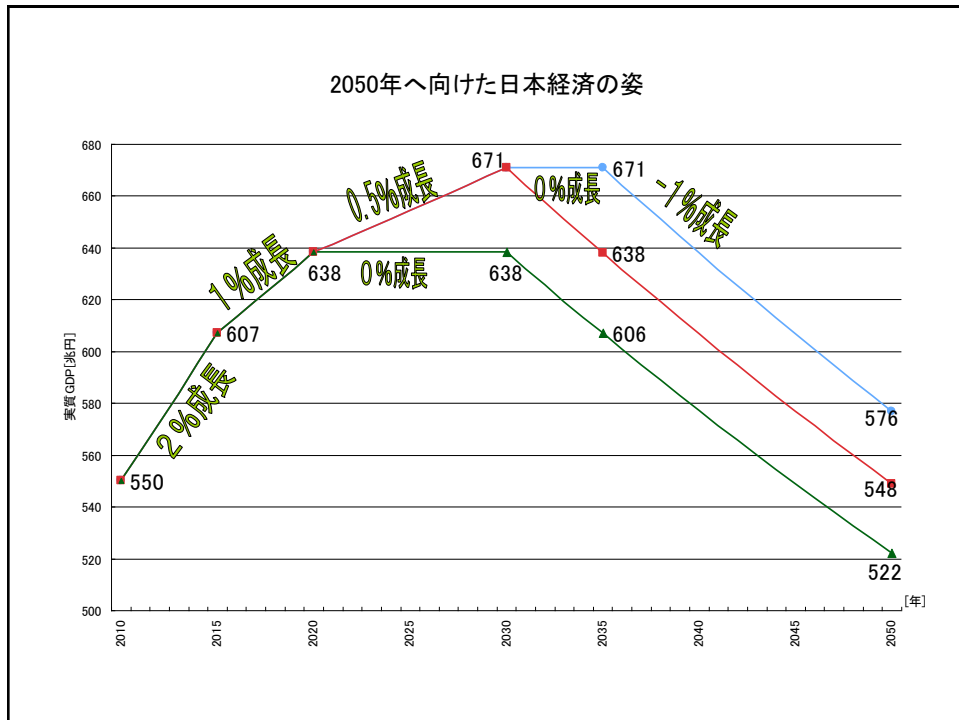


スウェーデンのデカップリング



環境税によるインセンティブ (スウェーデン・ベクショー市)





グリーン・リカバリー 1

今回不況からの回復

1 全治10年〔10年～2020年〕

2 緊急対策期間5年（10～2015年）

年間10兆円の財政支出が必要

5兆円は新エネルギーなどの開発・普及

5兆円は、内需依存型経済への転換支援

3 後半の5年間はリハビリ期間

グリーン・リカバリー2

具体的な対策

- 1 環境保全型の公共投資**
- 2 農林水産業の再生・復活**
- 3 エコ住宅の推進**
- 4 新エネルギーの技術開発、普及支援**
- 5 新しい制度設計**
- 6 新時代の主役たち**

グリーン・リカバリー3

グリーン・リカバリーの財源

1 埋蔵金（推定約50兆円）の活用

特別会計の予算規模は、一般会計予算の約4・4倍。08年度368兆円（一般会計予算83兆円）

2 無期限国債（グリーン・リカバリー国債）の発行

イギリスのコンソル公債など参考

グリーン・リカバリー4

新しい主役たちの登場

1 政治の強いリーダーシップ

使命感をもった政治家

2 企業家精神に富んだ経営者いでよ！

3 グリーン・コンシューマー、グリーン・インベスターの担い手としての国民の登場

結論

これからの日本は、適正に設計された環境規制（新しい制度設計）の導入をテコにして、新エネルギー、省エネルギー、さらに、環境重視の公共投資、農林漁業などの内需関連部門でブレークスルーを伴う技術革新の波を引き起こし、100年に1度の大不況を世界の先頭に立って乗り切っていくべきである。

